

「あなたの当たり前は、誰かの魅力かもしれない…」

大田原通信

大田原市移住・定住交流サロン通信

地元の良さ、再認識



大田原に住んでいる私たちが「当たり前」と思っていること…。それが移住してきた人にとっては「魅力」に感じられています。この通信では、そんな大田原の魅力について、毎月1回お伝えしています。

未来に繋がる種

— 花園創 (はなぞのそう) —
にしおか もも
西岡 桃さん

今回は、大田原市花園地区で農家民泊を始めた西岡桃さんにお話を伺いました。大田原市では盛んになっている、農業体験や宿泊ができる農家民泊。ご実家が代々続く米農家の西岡さんが、19歳という若さで挑戦した理由には、地域や自身の夢への熱い思いがありました。



那須拓陽高校を卒業後、農家民泊「花園創」をオープン

大豆に没頭した高校時代

西岡さんー「幼少期から植物への興味があり、花や植物バイオテクノロジーに関する知識を深められる高校に進学しました。入学後は大豆の部活に参加し、地域で古くから栽培されてきた在来種を継承していく活動をしました。この部活動では、種まきから収穫までを行い、大豆を豆腐や醤油に加工し地域のマルシェでの販売、また、公民館で収穫祭を開催しました。特に、収穫祭は多くの方に足を運んでいただき、地域の皆さんから大変喜んでいただけました。これらの活動を通じて、地域の方とつながりを築き、時には協力を仰ぎながら、人々の温かさに触れることができました。」

新しい挑戦

西岡さんー「高校卒業後の進路に迷っていましたが、花園地区の素晴らしい景色と地元の人への感謝から、地域を広く知ってもらいたいという思いが芽生え、農泊を始めることを決意しました。自宅に残る蔵や納屋を改装し、花園という素晴らしい地名とその土地を生かした新しい世界を創るという思いを込めて『花園創』と名付けました。昨年は農泊を始めたばかりで試行錯誤の日々でした。主に中学生の学習旅行の受け入れ、種まきや野菜の収穫などの農業体験、釜戸を使ったごはん作りなどの食体験を提供しました。その結果、とても気に入ってくれて、夏休みにもう一度来てくれた子もいました。また、大学生に研究室の研修や、農業体験ツアーでも使ってもらいました。一般の方も東京から足を運んでいただき、『非日常の体験ができるよかったです』という感想を頂いております。」



畠で収穫した野菜を楽しむ大学生



みんなで漆喰塗りをした宿泊部屋



納屋を改装した食事スペース

地域をつなぐ部活動

西岡さん一「地域の方にも楽しんでいただくため、『100人味噌』という一年を通した活動を行っています。この活動では、大豆の種まきから収穫までを農薬や化学肥料を不使用で行い、最後には地域の味噌屋さんに講師になっていただき、みんなで味噌を作ります。地域の子供から大人まで幅広い世代の方が参加してくださり、活動の中で参加者自身が得意なことでワークショップしてくれたりと、通常の味噌作りイベントとは一線を画すコミュニティを形成しました。最近では、同じ地域に住んでいても交流する事が少なくなっている中で、この活動が地域内での交流の新たな機会となりました。」



「100人味噌」の参加者で行った、大豆の種まきの様子

広がる夢

西岡さん一「中学生の頃から、『観て楽しい、食べて美味しいガーデン』をつくりたいと思っています。みんなと一緒にハーブや藍、エディブルフラワー（食用花）を栽培したり、畑で収穫した大豆を使った豆腐作りや母が作ったお米を使った麹作り、ハーブティー作りなどのワークショップを通して、みんなが楽しめる場を作り上げていきたいです。」



ホームページ



Instagram



LINE

農家民泊 花園創
大田原市花園1187-1



取材した方に聞きました
「あなたの好きな大田原」



母の田んぼから見える景色
毎日違った顔を見せてく
れてとても綺麗です。



こんな空き家をお持ちではありませんか？

- ・1000万円以下の戸建て
- ・家賃月3万円から6万円程度の戸建て
- ・市街地で平屋の戸建て
- ・郊外で庭付きの戸建て
- ・駐車場があり、1部屋8畳以上の戸建て

空き家バンクは売却だけでなく賃貸も可能です。

ご興味のある方は、お問い合わせください。

建築住宅課 空き家担当 TEL：0287-23-1916

お問い合わせ

大田原市の移住相談窓口
大田原市移住・定住交流サロン
大田原市本町1-4-1 大田原市役所A別館2階
Tel : 0287-23-8794 (平日/9:00~17:00)
Mail : salon@ohtawara-ijyu.jp



大田原の暮らし、地域情報など発信中！

担当課：大田原市役所 総合政策部 政策推進課